

「日韓文化交流基金 韓国大学生訪日団交流会」を開催

9月25日、創立50周年記念館（西棟）で「日韓文化交流基金 韓国大学生訪日団交流会」が行われた。この「韓国大学生訪日団」事業は、日本の外務省と韓国の外交部（※）が大学生相互派遣及びJENESYS2019（対日理解促進交流プログラム）の一環として行ったもので、韓国全土から選抜された大学生28名が同世代との交流のため本学を訪問した。

当日は、まず午前には山本淳国際交流センター所長、訪日団団長のシム・ギョヌン韓国外交部文化交流課長の挨拶、武部瑳智子さん（言4年）による韓国語での本学紹介の後、本学学生と訪日団学生は、学生食堂で昼食をとり、キャンパスツアーを行うなどした。午後は、ラーニング・スクエア



で、小宮秀陵言語文化学科専任講師と佐野康子英語学科准教授が進行役となり、学生たちが「日韓の歴史認識」と「世界における経済格差」について、ディスカッションを行った。その後行われた意見交換会、懇親会も大変友好的な雰囲気でお互いに理解を深めている様子だった。

※日本の外務省に相当する機関



留学フェア2019を開催

10月9日、学生センター1階雄飛ホールで「獨協大学留学フェア2019」（主催・国際交流センター）が開催された。これは、学生に、留学や海外体験に関する情報を提供し、早い段階から準備を始めてもらうことを目的に2015年より行われているもの。

当日は、学生だけでなく、父母や高校生の姿も見られ、約400名が来場した。会場には、ミニセミナーや留学経験者・留学や語学に関連する外部団体との個別相談ブースなどが設置され、参加者はメモを取りながら熱心に説明を聴いていた。“Language Café”では、外国人留学生が、各々用意した大学紹介のプレゼンテーションを見せながら、参加者との交流を楽しんだ。参加者からは「外部団体や留学経験者の方々に相談することで、留学の選択肢が広がった」「世界一周をした先輩から話を聞き、刺激を受けた」という声が寄せられた。

また、同フェアの関連イベントとして今年初めて開催された「3言語合同!多読ワークショップ」には20名の学生が参加した。講師を務めた矢羽々崇ドイツ語学科教授、田中善英フランス語学科教授、木村雪乃国際関係法学科専任講師の3名が、言語別の多読のコツや、図書館の多読本コーナーやICZの活用方法などを紹介した。



2019年度 9月卒業式を挙

9月20日、2019（令和元）年度9月卒業式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、83名の卒業生が巣立った。

犬井正学長は式辞で「本日卒業の皆さん方には、常にグローバルであるとともにローカルな課題にも対応できるセンスとスキルと自信に一層の磨きをかけ、それを仕事に生活に活用することで、揺るぎない人生を築いていただきたいと思います。常に世界の動きに目を向け、人生を先手、先手で積極的に設計し、逞しく生き抜いて下さい」と述べた。

卒業生を代表して長妻彩姫さん（フランス語学科）は「苦業を共にしてきた学友と過ごした4年間は、あっという間だと感じました。無事卒業できるのは、周囲の支援があってこそです」と謝辞を述べた。学位取得者は次のとおり。

■学 士 独12名、英13名、仏4名、交5名、言10名、済9名、営14名、環3名、律8名、国関法3名、総2名 計83名



第7回全国高校生英語プレゼンテーションコンテストを開催

10月6日、第7回全国高校生英語プレゼンテーションコンテスト（主催・獨協大学外国語学部）が35周年記念館小講堂で開催された。当日は、応募総数135名の激戦を勝ち抜いた9名の高校生が、熱いプレゼンテーションを披露した。

本コンテストは、高校生が「英語」を使って自分の考えを発表する機会創出等を目的に2013年より開催し、今年で7回目。第1位となる獨協大学学長賞には、二重国籍に関するプレゼンテーションを行ったミルン アラナ 由真さん（茨城県・茗溪学園高等学校1年）が選ばれ、賞状および副賞が贈られた。

また、プレゼンテーション後には本学ピアノ・フォルテ・ソシエツ、モダンジャズ研究会によるライブパフォーマンスが行われ、コンテストに華を添えた。

本選結果は大学ホームページ（<http://www.dokkyo.ac.jp/news/detail/id/9250/publish/1/>）を参照。

